



鈴木まもる県議会レポート

発行/自由民主党千葉県議会議員会 〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号 電話 043 (227) 7411

「県民の連携で豊かな社会づくり」を訴え、だれもが住んで良かったと思える街を目指して政治活動に打ち込んでいる鈴木衛県議(市川市選出、2期)は、2月県議会予算委員会で発言を求め、子育て支援、高齢者・障害者福祉について県の施策を質しました。こどもの医療費助成では県民の要望が多いとして、補助の拡大を要望しました。鈴木県議の質疑と県担当者の答弁をお知らせします。

2月県議会予算委員会



県議会予算委員会で質問をする鈴木衛県議

調剤通院 子どもの医療費補助 中学3年生まで拡大を

増加する社会保障関係費
鈴木議員 国の平成25年度的一般会計予算は、92兆6115億円となっている。しかしながら、バブル経済の時に60兆円近くあった税収は、40兆円余りに落ち込んでしまったままである。これに対して、年金・医療・介護保険給付、生活保護などの社会保障関係費は29兆1224億円で、一般会計予算の31・4%を占めている。地方交付税交付金と国債費等を除いた一般歳

出(53兆9774億円)における社会保障関係費の割合は54・0%にも達している状況にある。県においても、平成25年度的一般会計予算1兆5835億円のうち社会保障関係費は2236億円で、比率にして14・1%であったものが、新年度の予算においては134億円増えて231億円となり、過去最大規模の当初予算案1兆6143億円に対し、14・7

関係費が毎年自然に増していく中で、社会保障関係費の安定的な財源の確保と財政健全化を同時に克服していかねばならない。これからの社会保障関係費は増加が見込まれ、より一層のサービスの充実とともに、効率的な提供が求められる。そこで、県民の要望の多い高齢者・障害者福祉、子ども・子育て世帯への支援、医療・健康関係の健康福祉に特化した予算について、何点かの質疑をさせていただく。

調剤通院 市町村、独自に引上げ

まず、子ども医療費助成の拡充についてうかがう。知事は、子供医療費助成の継続と拡充に向けて検討を進め、子供たちの命や健康を守るとともに、子育て世帯の負担の軽減に取り組むと公約で述べている。

また、平成26年2月定例千葉県議会の知事の挨拶の中で「くらし満足度日本一」に向け、しっかりとした基盤をつくることとし、「県内経済の活性化」「くらしの安心・安心の確立」「子ども、子育て世代への支援の充実」「医療、福祉の充実」に重点的に予算を配分したと述べた。子ども医療費助成について、平成24年12月から入院医療費の助成対象を中学3年生まで拡大しているが、通院・調剤の助成については小学3年生までとし、新

も、市町村への支援の強化など義務を果たしていく必要があると考える。人口の高齢化、働く現役世代の減少、家族形態や地域の変化などに伴い、年金や医療、介護等の社会保障

関係費が毎年自然に増していく中で、社会保障関係費の安定的な財源の確保と財政健全化を同時に克服していかねばならない。これからの社会保障関係費は増加が見込まれ、より一層のサービスの充実とともに、効率的な提供が求められる。そこで、県民の要望の多い高齢者・障害者福祉、子ども・子育て世帯への支援、医療・健康関係の健康福祉に特化した予算について、何点かの質疑をさせていただく。

%を占めるようになる。高齢化に伴い年々増えてきている市町村の負担については、千葉県として

のか。児童家庭課長 県では、平成24年12月から入院医療費について中学校3年生まで助成対象を拡大し、1年が経過したことから、今後、対象拡大の効果について検証を行うこととしております。

再質問 鈴木議員 市町村や医療現場の状況から、県当局はどのように反映しようとしている

鈴木まもる県議プロフィール

■ 略 歴 ■

- 昭和26年 市川市若宮生まれ
- 私立市川高校卒業
- 専修大学文学部中退
- 市川市議会議員当選 (4期)
- 市川市議会議長
- 千葉県議会議員当選 (2期)

■ 現 職 ■

- 県議会 総合企画水道常任委員会委員
- 千葉県 競馬組合議会議長
- 水道事業運営審議会委員

要望 鈴木議員 平成25年度の県政に関する世論調査のうち、子育ての福祉についてのアンケートの結果をみると、次世代を担う子どもの育成支援の中で子育てに対する経済的な支援負担軽減を求める声は50%と最も高くなっている。特に県民の要望の高い分野であり、医療費補助の拡大について県民の願いに応えるよう要望をする。

都市づくり、地域づくりのご意見、ご提言をお寄せください。

鈴木まもる 県議事務所

〒272-0021 市川市八幡3-29-20 秋葉ビル3F
TEL 047-333-6000
FAX 047-322-3232

鈴木まもるホームページ http://www.suzukimamoru.com



県担当者の答弁を聞く鈴木衛県議

身体障害者手帳

速やかな交付必要 生活支援、1日でも早く

身体障害者を対象とする「身体障害者手帳」、知的障

害者を対象とする「療育手帳」、精神障害者を対象とする「精神障害者保健福祉手帳」があり、市町村を経由して千葉県の審査を経た後に交付される。このうち、「身体障害者手帳」については、標準処理期間として市町村の処理を含めて50日間を要するものとされている。

交付までの期間が長く、必要な支援を受けることができないなど、障害者にはなくてはならないものである。日常生活に必要な移動支援サービス、車椅子や歩行補助杖等の補装

鈴木議員

具費支給制度、福祉タクシー利用サービスなど必要なサービスを受けられず、日々の生活に影響を受けている。日常の生活に支障がないように、身体障害者手帳が早期に交付されるように職

員増員、民間への業務委託の活用、ICTの活用などの対応を新年度の予算において予定しているかがう。

障害福祉課長 身体障害者手帳については、申請から交付までの標準処理期間として、50日と定めておりますが、限られた人員の中で、事務処理方法を見直すことにより、少しでも早く交付できるように対応しております。

鈴木議員 これまでの県の対応については認める。手帳交付までの期間が長くなれば、その間の必要な支援を受けることに支障が生じる。手帳の早期交付に引き続き努力いただくよう要望する。

高年齢福祉課長 400万円の補助単価は全国トップクラスのものであり、特別養護老人ホームの整備促進に効果を上げています。考えておりますが、平成27年度以降の補助単価については、今後の入所待機者数や整備の進捗などの状況に応じて検討してまいります。

鈴木議員 平成25年度県政に関する世論調査では、「高齢者福祉を充実する」が上位であり、高年齢福祉では、「入所施設の充実」が22.6%と要望が高い。この事業の平成25年度の1084万5千円の予算が、平成27年度3月末と比べて1464万8千円増額となる2549万3千円を計上しているところ。鈴木議員 チーパス事業を継続今後、事業の拡充にどのように取り組むのか。健康福祉部長 県といたしましては、引き続き協賛店の拡大に努めるとともに、「チーパス」カードの更新時期に合わせて広報を強化するほか、専用ホームページ「チーパスねっと」にスマートフォンで周辺の協賛店を検索する機能を追加し、利用者が使いやすいようにするなど、事業の拡充を図ることとしております。

鈴木議員 徐々に参加する店舗、事業者も増えている中で、使用期限の延長が見込めなければ、新規の店舗等の拡大も図れない。チーパス事業が子育て支援策として普及するには、カード有効期限の延長が必要不可欠。本事業の更なる充実と拡大につとめていき、成果が得られるよう要望する。

特養の整備を急げ 入居待機者1万8000人超

鈴木議員 特別養護老人ホームの整備補助金についてうかがう。1月に、千葉県内の特別養護老人ホーム(特養)の入居待機者が3年連続で1万8千人を超えたことが新聞報道された。本年2月1日現在で千葉県内の特養は327施設、定員は2万488人となっている。平成21年度に1万5千人だった総定員を、千葉県では施設整備費への支援として、平成21年度から平成25年度まで一人あたり400万円の補助金を加算支出し、定員の拡大を図ってきたと認識をしている。

鈴木議員 保育園は、障害児を専門に受け入れる施設ではないが、障害の程度が中程度である障害児の受け入れを促進するため、昭和49年度より障害児保育事業において保育園に保育士を加配する事業が国庫補助事業として実施されてきた。この障害児保育事業については、事業開始より相当の年数が経過し、保育所における障害児の受け入れが全国的に広く実施されるようになったため、平成15年度よ

市50床、大網白里市60床、睦沢町50床です。残りの整備枠については、今後市町村において公募が行われる予定です。鈴木議員 平成27年度以降の加算措置について、どのように考えるのか。高年齢福祉課長 400万円の補助単価は全国トップクラスのものであり、特別養護老人ホームの整備促進に効果を上げています。考えておりますが、平成27年度以降の補助単価については、今後の入所待機者数や整備の進捗などの状況に応じて検討してまいります。

鈴木議員 子育て家庭が各種サービスを受けられる子育て応援、チーパス事業は平成24年7月から事業が開始されたあと協賛店舗、事業者が着実に増え、認知されつつある。この事業の平成25年度の1084万5千円の予算が、平成27年度3月末と比べて1464万8千円増額となる2549万3千円を計上しているところ。鈴木議員 チーパス事業を継続今後、事業の拡充にどのように取り組むのか。健康福祉部長 県といたしましては、引き続き協賛店の拡大に努めるとともに、「チーパス」カードの更新時期に合わせて広報を強化するほか、専用ホームページ「チーパスねっと」にスマートフォンで周辺の協賛店を検索する機能を追加し、利用者が使いやすいようにするなど、事業の拡充を図ることとしております。

鈴木議員 徐々に参加する店舗、事業者も増えている中で、使用期限の延長が見込めなければ、新規の店舗等の拡大も図れない。チーパス事業が子育て支援策として普及するには、カード有効期限の延長が必要不可欠。本事業の更なる充実と拡大につとめていき、成果が得られるよう要望する。

障害児保育支援へ 加配保育士に配慮

鈴木議員 保育園は、障害児を専門に受け入れる施設ではないが、障害の程度が中程度である障害児の受け入れを促進するため、昭和49年度より障害児保育事業において保育園に保育士を加配する事業が国庫補助事業として実施されてきた。この障害児保育事業については、事業開始より相当の年数が経過し、保育所における障害児の受け入れが全国的に広く実施されるようになったため、平成15年度よ

鈴木議員 子育て家庭が各種サービスを受けられる子育て応援、チーパス事業は平成24年7月から事業が開始されたあと協賛店舗、事業者が着実に増え、認知されつつある。この事業の平成25年度の1084万5千円の予算が、平成27年度3月末と比べて1464万8千円増額となる2549万3千円を計上しているところ。鈴木議員 チーパス事業を継続今後、事業の拡充にどのように取り組むのか。健康福祉部長 県といたしましては、引き続き協賛店の拡大に努めるとともに、「チーパス」カードの更新時期に合わせて広報を強化するほか、専用ホームページ「チーパスねっと」にスマートフォンで周辺の協賛店を検索する機能を追加し、利用者が使いやすいようにするなど、事業の拡充を図ることとしております。

鈴木議員 徐々に参加する店舗、事業者も増えている中で、使用期限の延長が見込めなければ、新規の店舗等の拡大も図れない。チーパス事業が子育て支援策として普及するには、カード有効期限の延長が必要不可欠。本事業の更なる充実と拡大につとめていき、成果が得られるよう要望する。

チーパス普及 カード有効期限の 延長が必要不可欠

鈴木議員 子育て家庭が各種サービスを受けられる子育て応援、チーパス事業は平成24年7月から事業が開始されたあと協賛店舗、事業者が着実に増え、認知されつつある。この事業の平成25年度の1084万5千円の予算が、平成27年度3月末と比べて1464万8千円増額となる2549万3千円を計上しているところ。鈴木議員 チーパス事業を継続今後、事業の拡充にどのように取り組むのか。健康福祉部長 県といたしましては、引き続き協賛店の拡大に努めるとともに、「チーパス」カードの更新時期に合わせて広報を強化するほか、専用ホームページ「チーパスねっと」にスマートフォンで周辺の協賛店を検索する機能を追加し、利用者が使いやすいようにするなど、事業の拡充を図ることとしております。